

# 真駒内地域 小規模校検討委員会ニュース

真駒内地域小規模校検討委員会では、子どもたちのためのよりよい教育環境の実現のため、学校統合に向けた具体的な事項について検討を進めています。

**検討委員会では、地域の皆様の意見も踏まえ検討を進めていきます。皆様からのご意見をお待ちしております。（ご意見の提出先は、4ページをご参照ください。）**

## 第2回委員会の検討内容について

第2回委員会では、現在の通学区域をもとにして統合パターンの検討を行いました。

その結果、『真駒内小学校と真駒内曙小学校、真駒内南小学校と真駒内緑小学校を組み合わせたパターン（Bパターン、右下図参照。）が最も適当だが、児童数のバランスをもう少し考慮して引き続き検討していく』こととなりました。



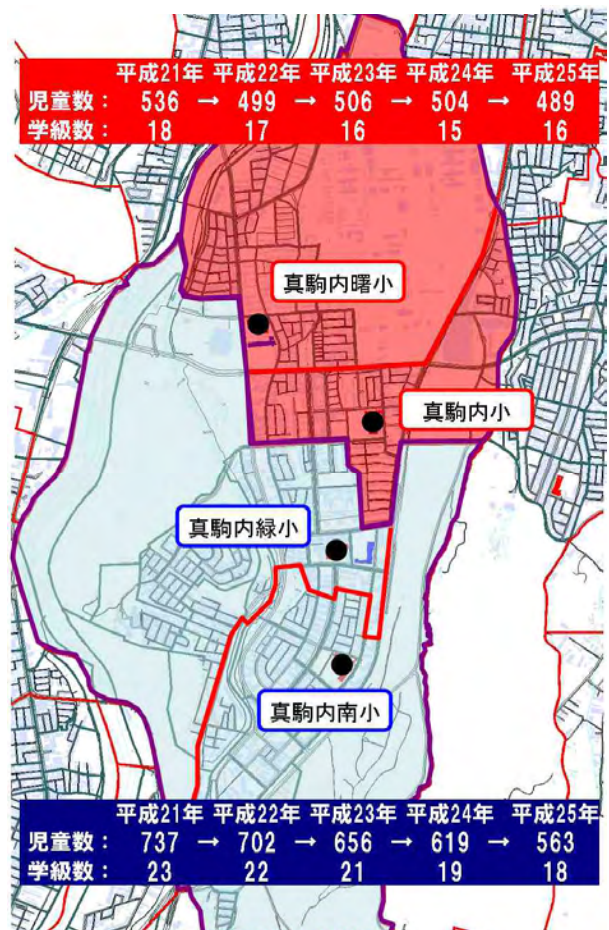
Bパターン

## 第3回検討委員会における検討

第3回検討委員会は、平成21年1月22日午前10時より、真駒内緑小学校にて開催されました。

前回（第2回）委員会で意見のあった「中学校の通学区域に合わせたパターン」や「地下鉄真駒内駅前の通りで地域を南北に分割するパターン」等について、統合した場合に見込まれる学校規模や通学距離の観点から、検討を進めました。

各統合パターンごとの考えられる課題やメリットについては、次頁以降をご覧ください



## 統合パターン

### Eパターン

【中学校の通学区域に合わせた場合】

Bパターンから以下の変更を行ったもの

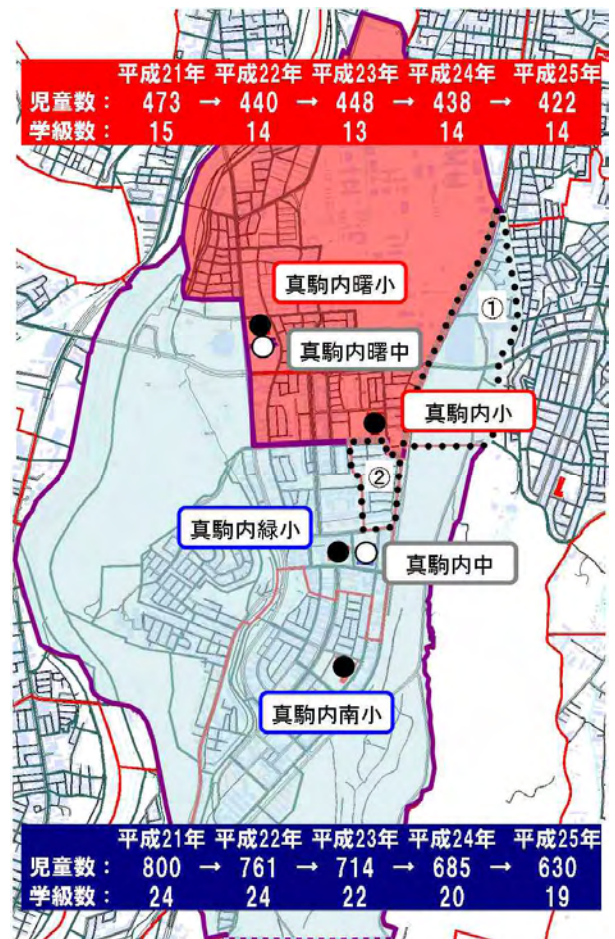
- 東町1～3丁目を南部へ移動
- 緑町4丁目を南部へ移動

【メリット】

- 北部、南部ともに全ての学年でクラス替えが可能となり、人間関係の固定化が解消される。

【課題】

- Bパターンよりさらに北部、南部の児童数に差が出る。  
(例：平成25年度の児童数の差は208名。  
Bパターンの場合は74名。)
- 北部では、統合校の位置により通学距離が2kmを超える児童が出る。
- 南部では、統合校の位置がどちらになっても通学距離が2kmを超える児童が出る。



### Fパターン

【地下鉄の駅前の通りから南北に分割した場合】

Bパターンから以下の変更を行ったもの

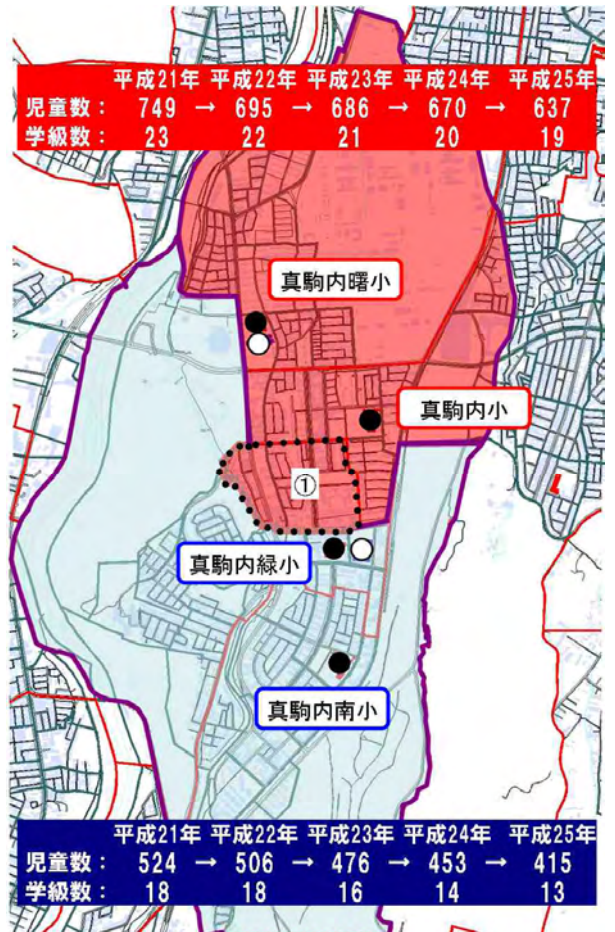
- 緑町1～3丁目を北部へ移動

【メリット】

- 北部、南部ともに全ての学年でクラス替えが可能となり、人間関係の固定化が解消される。

【課題】

- 北部と南部の児童数に逆転が生じたうえで、両校の児童数に差が出る。  
(例：平成25年度の児童数の差は222名。  
Bパターンの場合は74名。)
- 北部、南部ともに統合校の位置により通学距離が2kmを超える児童が出る。

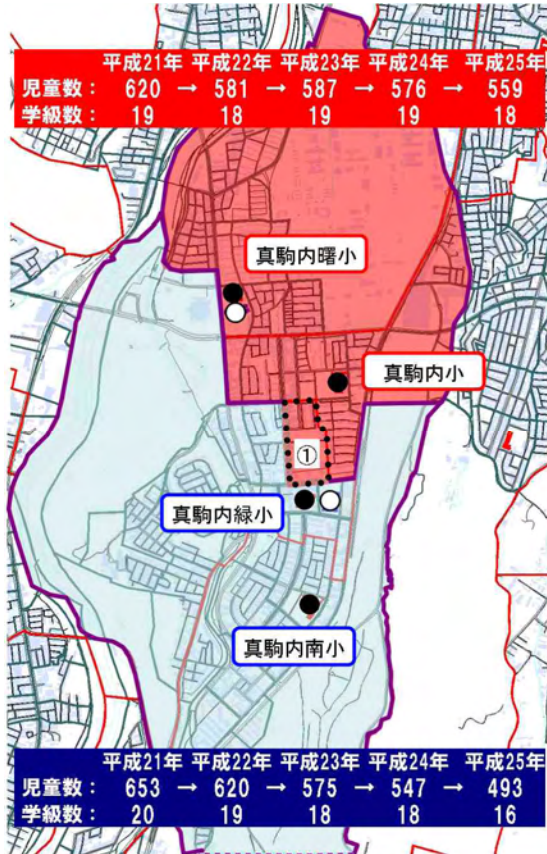


## Gパターン

【児童数のバランスを考慮した場合 1】

Bパターンから以下の変更を行ったもの

緑町3丁目を北部へ移動



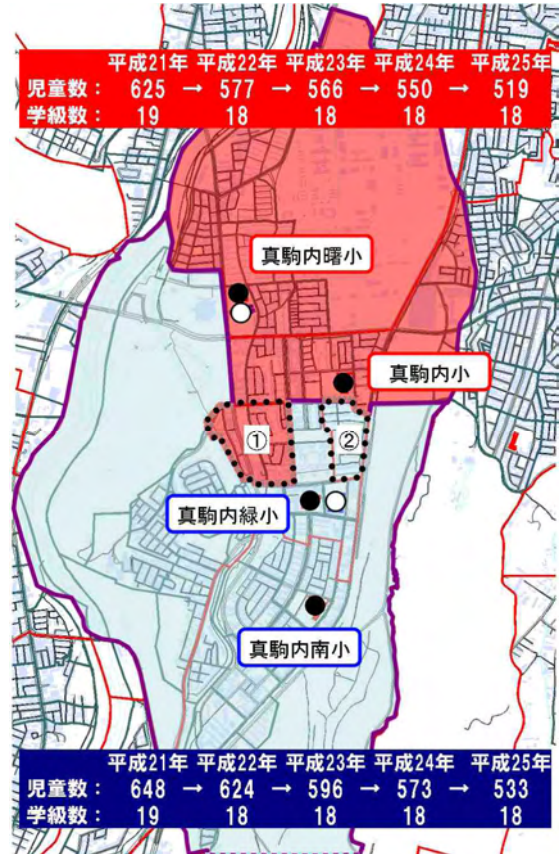
## Hパターン

【児童数のバランスを考慮した場合 2】

Bパターンから以下の変更を行ったもの

緑町1、2丁目を北部へ移動

緑町4丁目を南部へ移動



### 【メリット】

- ・北部、南部ともに全ての学年でクラス替えが可能となり、人間関係の固定化が解消される。

### 【課題】

- ・北部、南部ともに統合校の位置により通学距離が2 kmを超える児童が出る。

注) E～Hパターンの推計値(児童数及び学級数)は、Bパターンの推計値から、該当地域の住民基本台帳上の人数をもとに増減したものの

## 各委員から寄せられた意見

今回示された統合パターンについて

- ・ Eパターン(中学校区に合わせた場合)では、東町からの通学距離が長くなり過ぎる。
- ・ EパターンもFパターン(地下鉄駅前の通りで南北に分割する場合)も分けとしては分かりやすいが、児童数のバランスを欠いており、実際に図に表してみると、現在の学校の校区が大きく分かれてしまう。
- ・ G、Hパターンは、児童数のバランスはよく見えるが、今の友だちと離れなければならないという課題が生じるのではないかと。

### 検討にあたり配慮する事項

- ・現在の通学区域にこだわらずに検討してみたが、子どもたちが無理なく新しい学校生活を過ごしていけるように、現在の通学区域の組み合わせであるBパターンを基本に考えてもいいのではないか。
- ・一方で、望ましい学校規模という視点も大切にして、現在の通学区域を動かすという余地も残しておくべきではないか。
- ・Bパターンは、25年度の段階では児童数のバランスもとれているのではないか。
- ・極端に隣の学校との児童数の差があるのも問題だが、Bパターンの北部と南部の差であれば問題はないと思う。
- ・Bパターンの場合、東町や緑町4丁目の児童が、進学時に小学校の友だちと離れてしまうことにも配慮が必要である。
- ・真駒内地域は、地理的に南北に分けて検討することになるので、南北の境界に当たる「緑町」の住民に配慮する必要がある。

### その他

- ・自分の子どもの通っている学校の校区の中のことは分かるが、他の学校の校区については、あまり分からない。
- ・人や車の流れなどがわかる資料があれば、より具体的な検討ができる。
- ・この委員会では、最終的に意見書をまとめることになるので、必要な事項を決定しながら進めていくことになる。非常に責任のあることなので、いろいろな意見を出し、それまでの決定事項を大事にして検討することが必要である。

## 第4回検討委員会について

第4回検討委員会は、3月上旬に開催する予定です。次回も引き続き、統合パターンに関する検討を行います。

### 真駒内地域の皆様からのご意見をお待ちしております

ご意見は、下記の検討委員会事務局までお寄せください。

真駒内地域小規模校検討委員会事務局

札幌市教育委員会 総務部計画課（配置計画担当）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル5F

TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837

E-Mail haichikeikaku@city.sapporo.jp

この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。

[http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/shokibo\\_kentou.html](http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/shokibo_kentou.html)